

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 福山朋季

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

- ・ 毒性学講義：毒性学の獣医師教育コアカリキュラムに準拠し、国家試験に対応できるような授業内容、授業資料および期末テスト内容を作製する。本年度は期末テストに記述方式を追加し、より内容理解を問う問題とした。その前提の上で、常に変化しつつある毒性学や国際的ガイドラインの考え方について情報共有できるように努める。
- ・ 毒性学実習：人体薬、動物薬、農薬等の安全性を担保するために試験法を習得させると共に、毒性学に関するグループミーティングとプレゼンテーションを行う事により双方向性の授業に心がけた。獣医師の専門分野の一つとしての毒性学の社会的ニーズを共有する事で、就職支援にも役立つような内容を心掛ける。
- ・ 総合獣医学：国家試験対策のために毒性学講義の内容をおさらいすると共に、該当学生受講時から変更が加わった部分について重点的な情報提供を心掛けている。国家試験に直結する内容を心掛け、練習問題等の作成を実施している。
- ・ 専門学外実習：特に企業におけるインターンシップや就職情報を独自ルートで集め、学生にフィードバックする事で、学生に獣医師としての職域の広さや、将来の希望を持たせるように心がけている。
- ・ インターンシップ実習：4年次の科目である事から、獣医師としての職域についての基礎情報の提案、就職活動を行うにあたってのビジネスマナーやSNS等の秘密保持の大切さを学修できるような内容を心掛けている。企業就職については、就職活動の仕方、開始時期についてもアドバイスを与え、必要に応じてインターンシップ先の紹介を積極的に実施している。
- ・ 卒業論文・獣医学特論・専門ゼミ・科学の伝達：研究室活動は、社会に出る上での準備期間と位置づけ、研究活動を通じて自分の特徴や武器を身に付けさせることに主眼を置いて実施している。卒業研究も単に研究を遂行するだけでなく、共同研究先企業との通信や実験データの報告等、研究を取り巻く企業との接点も積極的に取らせている。学会発表や論文発表も積極的に実施させている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
インターンシップ	獣医学科	選択	4	18
専門学外実習	獣医学科	必修	5	130
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	1
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	2
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
毒性学実習	獣医学科	必修	4	138
毒性学	獣医学科	必修	3	158
動物薬理学	動物応用科学科	必修	2	147
獣医薬理学特論	獣医学専攻	自由	1	3
獣医薬理学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	自由	1	3
獣医薬理学特別実験Ⅰ	獣医学専攻	自由	1	3
獣医薬理学特別演習Ⅱ	獣医学専攻	自由	2	2
獣医薬理学特別実験Ⅱ	獣医学専攻	自由	2	2
修士論文	動物応用科学専攻（博士前期課程）	必修	2	1
獣医薬理学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	自由	3	1
獣医薬理学特別実験Ⅲ	獣医学専攻	自由	3	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

国家試験の合格はもちろんの事、その後の社会で活躍できる人材を育成するための専門教育機関となる事を理念に、講義、実習および研究活動を実施している。特に、日本における人口の減少および高齢化に伴い、飼育されるペットの数も減少しており、首都圏を中心に動物病院間の競争も激化している。生存戦略としての専門性獲得は最重要領域であり、講義や実習はもちろん、研究室活動においても獣医師免許取得後の専門性獲得を理念および目標としている。専門性獲得は、小動物臨床獣医師に限ったことではなく、産業動物獣医師、公務員、企業等の研究員が活躍する上でも必要不可欠である。卒業研究においても、卒業研究のためだけの研究は実施せず、企業との共同研究等社会に実装可能な研究や成果を出すプロジェクトに学生を参画させ、社会で実際に必要な知識を身に着けると共に、企業との通信やプレゼンテーションといった実社会で必要な知識を身に着けさせるようにしている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

授業、実習、研究室活動（卒業研究）の全てにおいて、社会に貢献できる人材を教育する事を主眼に学生へのアプローチを行っている。毒性学講義においてもコアカリ準拠や国家試験対策だけではなく、獣医師として毒性研究に現場で従事していた経験を活かして、毒性学がどのように社会で活かされるのか、どのような変革が行われているのか、獣医師としてどの

ようなことが求められているのかを、学生の考えを強調してお互いに共有するように心がけている。毒性学実習についても、実験方法の伝授だけではなく、実習を通じて学生の職域を広げる取り組みや専門学外実習およびインターンシップ実習とも連携させて、就職活動にも繋げられるような助言を行っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

毒性学実習では、班ごとにテーマを設定し、授業期間中に学習・議論を行い、最終授業で10分間のプレゼンテーションを実施させ、評価も学生に行わせた。目的は毒性学の現状課題を多角的に理解し、自分の考えを他者に伝える技術を養うことである。学生間や教員との活発な意見交換が見られ、双方向授業として一定の効果があつた。また卒業研究でも、社会還元を意識した学会発表や企業との共同研究への参加を促している。

(2) ICTの教育活用

有

近年の動物愛護への関心の高まりや法改正を受け、毒性学実習でも実験動物の使用に変革が求められている。従来は動物を用いた試験が中心であったが、細胞などを用いた代替法の開発が進んでいることから、実習においても積極的に導入している。次年度以降は使用動物のさらなる削減を目指し、専用アプリや動画による疑似演習などICTを活用した新しい方法の導入も検討している。研究室活動では、ゼミや各研究班の打ち合わせにオンラインツールを積極的に活用している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

麻布大学の学生の約7割が小動物臨床を志望していることから、毒性学講義・実習では単なる基礎教育に留まらず、薬物毒性が将来の臨床や動物・飼主利益にどう関わるかを示す工夫を行っている。講義では質問や相談が増え、小テストによる復習と自学促進を両立。実習では時事問題を用いたディスカッションやプレゼンで学生が専門知識を主体的に習得・共有する双方向授業を実現。研究室では学生の成果向上や進学意欲の継続も確認された。

(2) 学生の理解度の把握

A

期末試験では、内容は維持しつつ出題形式や傾向を変えることで、学生の対応力や理解度をより正確に把握できた。加えて、模範解答やフィードバックを迅速に提示することで、学生から直接反響を得られ、要望を授業内容や復習教材に即座に反映することができた。対面授業でも不足部分をオンデマンド教材や補助資料で補う工夫を行い、学生の自学自習や理解促進に効果的に活用できたと考えており、今後の授業改善にも活かせる取組となった。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学生から直接反響を得られたことで、要望を授業内容や復習教材に即座に反映でき、良好な反応が得られた。具体的には、対面授業で不足した内容をオンデマンド教材や補助資料で補い、自学自習を促す工夫を実施した。さらに、学生評価や質問内容を授業改善に迅速に反映させることで、学習効果の向上につなげている。来年度以降も同様の取組を継続し、より効果的な授業運営を目指す。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

普段の授業では講義内容に関する質問に即座に対応し、企業への就職を目指す研究室学生には個別面談を行うなど、学生一人ひとりに応じた支援を行っている。研究室所属学生とは常に密にコミュニケーションを心掛け、週約10時間を面談に充てるとともに、GoogleカレンダーやSLACKなどのツールを活用し、学生が教員と容易に連絡・相談できる環境作りに努めている。これにより、学習や研究活動のサポート体制を強化している。

(5) 双方向授業への工夫

B

麻布大学の学生の約7割が小動物臨床を志望していることから、毒性学講義・実習では基礎教育に留まらず、薬物毒性が将来の臨床や動物・飼主利益にどう関わるかを示す工夫を行っている。講義では質問や相談の機会を増やし、小テストで復習と自学促進を両立。実習では時事問題を題材にしたディスカッションやプレゼンを通じて、学生が主体的に専門知識を習得・共有できる双方向授業を実現した。研究室でも成果向上や進学意欲の継続が確認されている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学において、国家試験対策のために毒性学講義内容の重要点を絞って、できるだけ簡便におさらいすると共に、今年度の学生が毒性学講義を受講した時から変更が加わった部分について重点的な情報提供を心掛けた。国家試験に直結する内容を心掛け、練習問題等の作成を実施した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

画一的な授業資料や実習資料に頼らず、教科書には掲載されない毒性学や薬理学の現状や実例を紹介することで、学生が興味を持続できる授業を心掛けた。また、国家試験対策だけでなく、獣医師としての倫理や行動指針を意識した講義も実施し、知識の習得と職業人としての姿勢の両立を図る工夫を行った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

毒性学実習におけるプレゼンテーションは、毎年同じ趣向ではなく、その時々に応じて趣向を変えたものにする予定である。また、期末試験も過去4年間同じ形式をとってきたが、やはり過去問に頼った勉強方法になる傾向が強いため、本年度は形式を一新し、新しく学生の修学実績を得る事が出来た。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

国家試験対策として分かりやすい授業を心掛けると同時に、学生の卒業後の活躍に役立つ講義・実習・研究室活動となるよう、教育内容の工夫や研究の発展に努める。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

毒性学実習におけるプレゼンテーションは、毎年同じ趣向ではなく、その時々に応じて趣向を変えたものにする予定である。また、期末試験も過去4年間同じ形式をとってきたが、やはり過去問に頼った勉強方法になる傾向が強いため、本年度は形式を一新し、新しく学生の修学実績を得る事が出来た。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業で毒性学と獣医師の職域や役割を紹介したところ、毎年20名以上の学生が将来の就職活動について相談に訪れ、実際に成功する事例も増えている。これにより、授業が単なる知識習得だけでなく、学生の進路決定や方向性の選択に具体的に寄与していることを実感しており、教育の意義を肌で感じている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

指導力向上のため、FD研究会や有志の研究会に積極的に参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

国家試験に合格して獣医師となる事がゴールではなく、獣医師となってから実社会で活躍できる専門家育成を目指すため、毒性学講義では、毒性学を学問としてだけではなく、卒後教育、小動物臨床領域等でいかに活用するかを伝えていきたい。実習は、その専門家教育をさらに進歩させて、獣医師として毒性学を通してどのように社会に貢献できるのか、活躍できるのかを共有できるような実習としたい。卒業研究および研究室活動は、学生にも関わらず多くの学会発表や誌面発表をこなしてくれる学生が増え、専門家育成機関としての目標に近づいている事を感じている。今後も、学生の将来にとって有効な環境作りを進めていきたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

シラバス，小テスト，レポート課題，試験問題，教材，FDプログラムなどへの参加記録，授業評価データ，授業に関するコメント，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類